

(倫理様式 2-2-1)

訪問リハビリテーション開始時の目標設定が終了時のアウトカムに及ぼす影響 ～傾向スコアマッチングを用いた FIM・FAI・LSA の比較～

1. 研究の対象

2014年7月から訪問リハビリを開始し、2026年3月までに終了した脳卒中患者

2. 研究目的・方法

訪問リハビリは、患者の価値観や生活背景に基づき、目標志向的に実施されることが重要です。実際の臨床現場では、日常生活動作(ADL)や手段的日常生活動作(IADL)、さらには社会参加に至るまで多岐に渡る目標が設定されている。しかし、これら設定される目標の違いが、訪問リハビリ終了時のアウトカムにどのような影響を及ぼすかについては、十分に検討されていません。本研究は、訪問リハビリ開始時から IADL 能力の向上や社会参加を目標に設定することの有用性を明らかにすることを目的とします。

当院の訪問リハビリテーション部では、ADL がどれだけ自立しているかを数値化する評価法である Functional Independence Measure(FIM)を用いて ADL を評価しています。さらに、家事動作や趣味活動、社会活動などの活動性を評価する評価表である Frenchay Activities Index(FAI)を用いて IADL(手段的日常生活動作)を評価や患者の生活範囲の広がりや生活空間を評価する評価表である Life Space Assessment(LSA)を用いて生活空間を評価しています。

今回の調査には、対象患者さんの年齢、性別、発症から訪問リハビリ開始までの日数、訪問リハビリ開始時・終了時の FIM、FAI、LSA 点数のデータを用います。

これらの研究は倫理審査委員会の承認後から 2028 年 3 月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報： 年齢、性別、発症から訪問リハビリ開始までの日数、訪問リハビリ開始時・終了時訪問リハビリ開始時・終了時の FIM、FAI、LSA 点数

※個人が特定される情報は用いません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(倫理様式 2-2-1)

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

研究責任者 野本 正仁

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

T E L : 0270-27-8813 F A X : 0270-24-3359